

Ei Arakawa-Nash:



荒川ナッシュ医 🍒 ペインティングス・アール・ポップスターズ

Ei Arakawa-Nash: Paintings Are Popstars

2024年10月30日[水]—12月16日[月]

October 30–December 16, 2024

国立新美術館 | 企画展示室2E 東京六本木

The National Art Center, Tokyo | Special Exhibition Gallery 2E

観覧料 無料 休館日 毎週火曜日
Admission Free Closed Tuesdays

開館時間 10:00–18:00 | 金曜・土曜は20:00まで | 入場は閉館の30分前まで
Opening hours 10:00–18:00 | 10:00–20:00 on Fridays and Saturdays
Last admission 30 minutes before closing

主催 国立新美術館 協カ タカインシイギャラリー
Organized by The National Art Center, Tokyo
Cooperated by Taka Ishii Gallery



〒106-8555 東京都港区六本木6-10-1
TEL: 03-5561-8000 (受付) | <https://www.nac.tytl.jp>
E-MAIL: info@nac.tytl.jp
1-2-2 Nipponbashi, Minato-Ku, Tokyo 106-8555

The National Art Center, Tokyo

ユーミン、キム・ゴードン、千葉雅也、村瀬歩ら参加決定

豪華書き下ろしで絵画のためのインスタレーション・アートが実現

国立新美術館は10月30日(水)から12月16日(月)まで、「荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ」を開催します。2000年代から国際展や美術館でパフォーマンス・アートを発表してきた米国在住のアーティスト、荒川ナッシュ医のアジア地域においては初めての美術館での個展です。荒川ナッシュ医はコラボレーションをアート活動の基本とし、一作家の個展でありながら、彼に協力する多数の画家による絵画が2000㎡の会場内の9つのセクションに分かれて「登場」します。誰もが美術館の床に絵が描ける作品など、入場無料でどなたでも楽しめる本展は絵画とパフォーマンスの近い関係を探る新しい試みとなるでしょう。

本展で試みる様々なコラボレーションの中でも、目覚ましい活躍を見せているミュージシャン、哲学者、声優が参加する、絵画のためのスペシャル企画が決定しました。松任谷由実と松任谷正隆、寺尾紗穂、千葉雅也、村瀬歩、ハトリ・ミホ、キム・ゴードンが参加し、豪華書き下ろしで絵画のためのインスタレーション・アートが実現します。

展覧会概要

荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ

会期 2024年10月30日(水) - 12月16日(月)

時間 10:00 ~ 18:00 (毎週金・土曜日は20:00まで)

※入場は閉館の30分前まで

会場 国立新美術館 企画展示室 2E
(東京都港区六本木7-22-2)

料金 無料

主催 国立新美術館

協力 タカ・イシイギャラリー

企画 米田尚輝(国立新美術館主任研究員)

ウェブサイト

https://www.nact.jp/exhibition_special/2024/eiarakawanash/

パフォーマンス・スケジュール PDF

https://nact.jp/exhibition_special/media/PerformanceCalendar_JP.pdf

荒川ナッシュ医 によるコメント

2013年のユーミンの曲から引用した展覧会タイトルは、わたしにとっての絵画は「みんな決めたミッション」を持っているポップスターであるという意味。今回は、覚悟を決めた、ブレないミュージシャンや、哲学者のみなさまにお願いして、個性的な絵画のために新たな作品を書き下ろしていただきました。美術館という空間が、彼ら彼女らのアティテュード（態度）で染まります。この秋は、ぜひ国立新美術館で会いましょう！



Photo: Ricardo Nagaoka

荒川ナッシュ医（あらかわ なっしゅ・えい）

1977年福島県いわき市生まれ。1998年からニューヨーク、2019年よりロサンゼルスに居住する米国籍のクィア・パフォーマンス・アーティスト。様々なアーティストと共同作業を続ける荒川ナッシュは、「私」という主体を再定義しながら、アートの不確かさをグループ・パフォーマンスとして表現している。近年の個展にテート・モダン（ロンドン、2021年）があり、来年はミュンヘンの現代美術館ハウス・デア・クンストで個展を予定している。ホイットニー・ビエンナーレ（ニューヨーク、2014年）やミュンスター彫刻プロジェクト（2017年）などの国際展にも参加、パブリック・コレクションに、ニューヨーク近代美術館、ルートヴィヒ美術館（ケルン）がある。ハーバード大学、UCLAで教えた後、現在はアートセンター・カレッジ・オブ・デザインの大学院でパフォーマンス・アートを教える。

荒川ナッシュ医は次のアーティストの作品と共にパフォーマンスを行います：

荒川ナッシュ・フォレスト with 田中悠貴、カルテットアルコ、ケルスティン・ブレチュ with 石川昇 & 石川隼人、ジョン・ケイル/トニー・コンラッド/テリー・ライリー、千葉雅也 with 村瀬歩、レイディ・チャーチマン、ブルース・コナー/マイルス・デイヴィス/ジェイ・デフェオ、マヤ・デレン & 伊藤貞司、ニコール・アイゼンマン、キム・ゴードン、ハトリ・ミホ、はぴ LIFE チャンネル、セリア・ホランダ、カール・ホルムキュビスト、ミヨコ・イトウ、亀田晃輔、桂ゆき、河原温、ユタ・クータ、国吉康雄、丸木俊（赤松俊子）with 寺尾紗穂、アンリ・マティス with 松任谷由実 & 松任谷正隆、南川史門、森大志郎 with 森紘、オスカー・ムリーリョ with 龔楊飄飄/伊藤悠希/李思穎/欧静薇、ルイス・ニシザワ、シルケ・オットー=ナップ with 石川朝日 & 楊いくみ、ローラ・オーエンズ、ゲラ・パタシュリ、ダン・ポストン、セス・プライス、斎藤玲児、トレバー・シミズ、エイミー・シルマン with マリーナ・ローゼンフェルド、白髪富士子、田中敦子、演劇集団 LGBTI 東京 with 小住優利子/差異等たかひ子/高橋菜由、富井玲子、フリーダ・トランゾ・イエーガー、ユナイテッド・ブラザーズ、八重樫ゆい、吉原治良、65歳以上の美術館ボランティア、他。（2024年10月4日現在）

アンリ・マティス

×

松任谷由実

with

松任谷正隆



アンリ・マティス《顔》
筆と墨/紙、24 × 23 cm
1951年
読売新聞社



「小鳥曜日」

長年アンリ・マティスを愛するユーミンが、第二次世界大戦中のニース時代のマティスを想って新曲「小鳥曜日」を制作。1951年に読売新聞社へマティス自身が寄贈した三点のドローイング作品《顔》を展示し、「人と絵画は時間の感じ方が違う」という松任谷正隆の発想から、通常の絵画展とは全く違う空間がインスタレーション・アートとして実現します。

アンリ・マティス (1869-1954)

マティスは、強烈な色彩を操ったフォーヴィスム（野獣派）の中心的な画家として活躍し、「色彩の魔術師」と評されるほどの優れた色彩感覚に絶妙な造形感覚をかけ合わせ、パブロ・ピカソと並んで美術史上に残る数々の傑作を生み出した。晩年は、彩色した紙をハサミで切った切り紙絵や、墨を用いたデッサンなどを手がけていた。

松任谷由実からのコメント

もしマティスの絵が、何かを呟いたとしたら、、というテーマに、私は一瞬でコートダジュールの深い空の色を思い浮かべた。

強烈な陽差しに溶けてゆく鳥影。

あのときあとにした戦禍のパリが、ひどく恋しかったかもしれない。

松任谷由実

1954年、東京都生まれ。シンガーソングライター。1972年、多摩美術大学在学中にシングル「返事は知らない」で荒井由実としてデビュー。「ひこうき雲」、「やさしさに包まれたなら」、「あの日にかえりたい」、「恋人がサンタクロース」、「守ってあげたい」、「リフレインが叫んでる」、「真夏の夜の夢」、「Hello, my friend」、「春よ、来い」等、多くの名曲を残す。通算40枚目になるオリジナルアルバムを制作中。



松任谷正隆からのコメント

美術館の中での時間は自由です。

誰もが過去や未来に思いを馳せながら作品を楽しみます。

荒川ナッシュさんはその自由を束縛しようと考えた・・・と僕は解釈しました。

そこで僕は束縛された自由を提案してみました。

松任谷正隆

1951年、東京都生まれ。4歳からクラシックピアノを習い始め、14歳の頃にバンド活動を始める。1971年、加藤和彦に誘われ、ミュージシャン・デビューを果たし、キャラメル・ママやティン・パン・アレーなどのバンドに参加。その後アレンジャー、プロデューサーとして、松任谷由実を筆頭に、松田聖子、ゆず、いきものがかりなど、多くのミュージシャンの作品に携わる。

特別イベント「旅立つ秋」

11月16日(土) 18:00から閉館までは、通常はローテーションにより20分に1度しか聞けない「小鳥曜日」を繰り返し楽しむことができます。当日は国立新美術館のロビーにて「旅立つ秋」と題し、荒川ナッシュと来館者による「小鳥曜日」についてのトークイベントを開催いたします。(ユーミン、松任谷正隆本人の出演は予定しておりません。)

新曲「小鳥曜日」は、荒川ナッシュゲスト出演のもとラジオ番組でオンエアされます。会場以外で聞く事が出来るのはラジオ番組のみです。ぜひ注目ください。

◆11月15日(金)、22日(金)

『Yuming Chord』

(毎週金曜 11:00～11:30 放送 TOKYO FM/JFN 全国38局ネット)

◆11月15日(金)、22日(金)

『松任谷正隆の…ちょっと変なこと聞いてもいいですか?』

(毎週金曜 17:30～17:55 放送 TOKYO FM)

丸木俊

×

寺尾紗穂

「ミクロネシア三景」

2004年よりサイパンやパラオなどで旧日本統治時代を知る人々を訪ね、ノンフィクションを発表しているシンガーソングライターの寺尾紗穂。彼女が埼玉県の丸木美術館を訪問し、丸木俊の3点の絵画《ヤップ島の物語》、《パラオ島》、《アンガウル島に向かう》の前で楽曲のインスピレーションを得た。民族楽器奏者、歌島昌智の協力によって、当時のパラオの労働者に想いを馳せた丸木の視点に寄り添うような楽曲が完成した。本展では、この3点の絵画作品から楽曲が聴こえてくるようなインスタレーションを発表する。



丸木俊（赤松俊子）《パラオ島》
油彩／カンヴァス、72.7 × 90.9 cm
1940年
丸木ひさ子氏蔵

丸木俊（赤松俊子）（1912-2000）

日本の画家。1940年に日本統治下の南洋諸島へ渡り、短期ながらも民俗学者・土方久功の協力で現地の住民の生活に溶け込み、そこで暮らす人々の姿を描いた。帰国後の1941年に丸木位里と結婚し、原爆投下直後に広島を訪れた経験をもとに、1948年から位里と共同で《原爆の図》の制作を開始した。原爆による悲惨な情景を強く訴えるこの作品は、世界各地を巡回して展示された。



Photo: Hiroyuki Takenouchi

寺尾紗穂からのコメント

丸木俊には旧南洋群島での滞在を経て残した作品があります。俊の島民への眼差しを感じる作品、逆にスケッチする俊を眺める多様な眼差しが写し取られたものもあります。彼女が南島で彼らをよく見、また無邪気に交流した時間。その島風を追いかけて音をもらいました。

寺尾紗穂

1981年東京都生まれ。音楽家、文筆家。2007年にピアノ弾き語りによるアルバム『御身』でデビュー。オリジナルの創作と並行して、埋もれた古謡の発掘やリアレンジしての録音、演奏、調査も続けている。文筆家としても、新聞やウェブなどで多数の連載を持つ。聞き書きに基づくノンフィクション・エッセイの執筆にも取り組み、著書に『原発労働者』『あこのころのパラオをさがして 日本統治下の南洋を生きた人々』、『日本人が移民だったころ』などがある。9月18日に11枚目のアルバム『しゅー・しゃいん』を発表。

千葉雅也

+

村瀬歩



© 文藝春秋 (Bungeishunju)



「サマー・レンタル」

荒川ナッシュは、ジャンルに囚われないアメリカの美術家ラウシェンバーグが1960年に描いた4連作〈サマー・レンタル〉に基づき、4点のLED絵画を制作。その4点のLED絵画のために、哲学者千葉雅也が初めての戯曲を完成させました。短い散文的かつリズムミカルな戯曲が、声優界のカウンターテナーとも呼ばれる村瀬歩の声によってインスタレーション・アートになります。

千葉雅也のコメント

今回、荒川ナッシュ医さんと「絵画同士が会話する」という状況について共に考え、それが初めての戯曲作品となりました。『センスの哲学』の表紙に掲げたものを含むラウシェンバーグの4枚の連作が、登場「人物」です。

千葉雅也

栃木県生まれの哲学者、作家。20世紀の哲学思想を起点とし、芸術、文化、社会について幅広く考察している。千葉はこれまで「私小説の脱構築」に関わる小説作品を発表し、時間、性、家族といった主題を描いてきた。理論的著作として、『動きすぎてはいけない——ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』（河出書房新社、2013）、『勉強の哲学』（文藝春秋、2017）、『現代思想入門』（講談社現代新書、2022）、『センスの哲学』（文藝春秋、2024）など。小説作品に、『デッドライン』（新潮社、2019）、短篇「マジックミラー」（2021、『オーバーヒート』所収）、『エレクトリック』（新潮社、2023）など。

村瀬歩のコメント

アートと声のお芝居がどんな化学反応を起こすのか未知数なところも多いのですが、とてもワクワクしています！是非楽しみにお待ちしておりますと嬉しいです！

村瀬歩

1988年アメリカ合衆国カリフォルニア州生まれ。声優。幅広い声色が特徴で、代表作に「ハイキュー!!」の日向翔陽役、「魔入りました！入間くん」の鈴木入間役、「あんさんぶるスターズ！」の姫宮桃李役、「怪盗ジョーカー」のジョーカー役、「Dr.STONE」の銀狼役、「王様ランキング」のカゲ役などがある。2016年、第10回声優アワードで新人男優賞（現：新人声優賞）を受賞。

ハトリ・ミホ

with

荒川ナッシュ医



Photo: Kimisa H

「Hello Hello Halo-Halo (ハロハロハロハロ)」

デイヴィッド・メダラ (1942-2020) の 1984 年の自画像を元に、荒川ナッシュは LED 絵画を制作。日本占領時代のマニラで泡をふきながら死にゆく日本兵を目撃した幼いメダラのエピソードを念頭に、ハロハロというフィリピンの代表的デザートが登場するハードコアなフード楽曲をハトリ・ミホが書き下ろします。

ハトリ・ミホのコメント

”〈他者〉がかかえる問題に取り込むことにより、人は自己に出会うこともある。”

— エドゥアール・グリッサン

今、一方的な大陸主義から、横軸のアジアとの関係性をもう一度、振り返る。

歴史の教科書に載っていない部分に光を当てて、私たちの独自の新しい

リミックスやポエトリーを捧げるときがやってきたね。

私たちに何ができるかな？

ハトリ・ミホ

ニューヨーク在住の音楽家、アーティスト、音楽プロデューサー、DJ。1994年に渡米し、ニューヨークで本田ゆかとチボマットを結成後、2017年に解散。ゴリラズ、ビースティー・ボーイズなどの作品に参加。2021年にオリジナルアルバム『Between Isekai and Slice of Life (～異世界と日常の間に～)』を発表している。近年は、自作の映像を使ったコンセプチャルなパフォーマンスを美術館などで行っている。

キム・ゴードン



Photo : Danielle Neu

キム・ゴードン

「オノ・ヨーコの《インストラクション・ペインティング》のためのサウンド・イベント」

60年前の前衛詩の本、オノ・ヨーコの《グレープフルーツ》(1964年)からの《インストラクション・ペインティング》に反応し、キム・ゴードンが断片的な47の新トラックを制作。チャーリーXCX、ヤー・ヤー・ヤーズの鬼オプロデューサー、ジャスティン・ライゼンと共に、美術館のための初インスタレーションとなる。「想像力を体現しながら、ヨーコは他の誰も思いつかないようなアイデアを実現させる。」とゴードンは語る。

キム・ゴードンのコメント

オノ・ヨーコは、すべての女性のロールモデルの一人ではなく、私のロールモデルだ。

《インストラクション・ペインティング》は、さらに多くのアイデアや、新たな世界の見方に繋がるような、絵画のあり方を提案する。私もヨーコと同じように、自由な発想が尽きない人生を歩みたい。

キム・ゴードン

1953年ニューヨーク州生まれのミュージシャン/シンガー・ソングライター。ロサンゼルスで育ち、その後、ニューヨークで1981年にサーストーン・ムーアとオルタナティヴ・ロック・バンド、ソニック・ユースを結成。90年代以降はフリー・キトゥンやボディ/ヘッドなどでも活動し、オノ・ヨーコらともコラボレーションを展開している。2024年3月に2枚目のソロアルバム『The Collective』を発表し、フジロックフェスティバルにも参加したばかり。

本展のポイント

「生きた美術館」をテーマに鑑賞者と探る、21世紀のパフォーマンス・アートの現在形

国立新美術館では初めてのパフォーマンス・アーティストによる個展となる本展。可動壁により展示プランを自在に変えられるという黒川紀章建築の特徴を最大限に利用し、風通しのいい会場設計を実現しました。会期中のパフォーマンスは、絵画を用いてダンスでコミュニケーションする《マッド・ガーランド（怒りの花綱飾り）》、絵画の中に吸い込まれる《ネメシス・ペインティング（宿敵の絵画）》などが予定されています。

会期中毎週開催されるペインティングス・アー・ポップスターズ・ツアー

アーティストによる即興的な展覧会ツアーを会期中毎週ご用意しています。荒川ナッシュいわく、この約30分のツアーは「乗り降り自由。好きな時に参加して、好きなタイミングで離脱OK」。ツアーの予定は、その他のパフォーマンス・スケジュールとともに国立新美術館のホームページでご案内します。英語によるツアーは、荒川ナッシュ医のパートナーである荒川ナッシュ・フォレストが行います。

《メガどうぞご自由にお描きください》

2021年にテート・モダンのタービン・ホールで発表された、具体美術協会の吉原治良へのオマージュ作品《メガどうぞご自由にお描きください》が展示されます。会期中毎週日曜日に開催予定のこの参加型インスタレーションでは、誰もが自由に美術館の床に絵を描けます。2025年にはミュンヘンの現代美術館ハウス・デア・クンストに巡回予定の、この巨大プロジェクトをいち早くご堪能ください。

日本初公開となる歴史的絵画や、新作絵画

河原温が新生児や同性愛に言及した1964年の日本未公開ドローイング。日系アメリカ人の抽象画家として近年評価されつつあるミヨコ・イトウの絵画。ニコール・アイゼンマンの世界初展示となる画家の2人の子供の肖像画。八重樫ゆいがベビーカーに直接描いた絵画。ケルスティン・ブレチュによる「凧絵画」。オスカー・ムリーリョの新作。南川史門の6mを超える絵画など、多様な作家たちの絵画作品を紹介します。

ユーミン、寺尾紗穂、ハトリ・ミホ、キム・ゴードンが本展のために書き下ろした新曲でインスタレーションが実現

まるで絵画が歌うかのような楽曲インスタレーションをお楽しみください。

- ・アンリ・マティスに触発された、松任谷由実 & 松任谷正隆「小鳥曜日」
- ・丸木俊に触発された、寺尾紗穂「マイクロネシア三景」
- ・デイヴィッド・メダラに触発された、ハトリ・ミホ with 荒川ナッシュ医「Hello Hello Halo-Halo (ハロハロハロハロ)」
- ・オノ・ヨーコに触発された、キム・ゴードン「オノ・ヨーコの《インストラクション・ペインティング》のためのサウンド・イベント」

哲学者、千葉雅也の初戯曲に基づいた LED インスタレーション。声優、村瀬歩もアート初参加

ロバート・ラウシェンバーグによる 1960 年の 4 連作に基づいた LED が集まった部屋で、千葉雅也の初戯曲を村瀬歩がカメレオンボイスで熟演します。そして、ロバート・インディアナ、エルズワース・ケリー、アグネス・マーティンら 1950 年代のニューヨークの伝説的クィア・アーティストによる作品を LED で再現したスペースもあります！

本展覧会のために作られた映像作品や、1967 年の前衛映像作品

映像作家、斎藤玲児が、国立新美術館や徳島県の大塚国際美術館、そして東京の国際性を象徴する麻布台ヒルズを舞台にした新作映像を発表します。ブルース・コナーの 1967 年の映像作品《白いバラ》には、アメリカの画家ジェイ・デフェオの 900kg 巨大絵画《バラ》(1958-66 年) も登場します。

出産カウントダウン！

アメリカのカリフォルニア州で卵子提供と代理出産を経て、2024 年 12 月 30 日に双子の赤ちゃんを迎える予定の荒川ナッシュ。会場には出産予定日をお知らせするカウントダウン映像が設置されます。荒川ナッシュが考えるフェミニズムの観点から、「アート活動と子育ての両立」を主題としたセクションも準備しています。

楽曲・戯曲 インスタレーション について

- ・会場には日本語・英語の歌詞が展示されます。
- ・曲名やインスタレーションの詳細は変更になる場合がございます。
- ・各楽曲・戯曲インスタレーションの静止画撮影は可能です。
ただし録画・録音はお控えください。
- ・各楽曲・戯曲は、ローテーションで再生されます。お時間に余裕を持ってお越しください。
- ・会場内は複雑な導線になっておりますので、入り口で配布されるマップをご利用ください。

国立新美術館について

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007年、独立行政法人国立美術館に属する5番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース（14,000㎡）を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムの実施に取り組んでいます。

来館のご案内

独立行政法人国立美術館 国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2
<https://www.nact.jp>

開館時間：10：00～18：00

企画展会期中の毎週金・土は20：00まで（入場は閉館の30分前まで）

休館日：毎週火曜日

アクセス：東京メトロ千代田線乃木坂駅
青山霊園方面改札6出口（美術館直結）
東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分
都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分
※美術館に駐車場はございません

一般の方のお問合せ：TEL：050-5541-8660（ハローダイヤル）

広報用画像 最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://www.artpr.jp/nact/ei-arakawa-nash2024>

プレスリリースお問い合わせ 国立新美術館 広報室 Tel：03-6812-9925 E-mail：pr@nact.jp